くすぐりレイプ
処刑人
VS
女闘士
Vol.2

「てめぇ・・いったい何モンだ！大会参加者が次々消えてるのはてめぇの仕業か！」
「くくく・・・さっそく元気なのが手に入ったな。そんなに知りたいならここで何が行われているか教えてやろう。お前の体にな・・・」

「なあっ!?お、おい・・・どこ触って・・・
まさか・・・!?」
ビクッ
ナデ…
ツゥ〜

「ふくううん！んっ……！ふふふふ！
うむううんん！くきききき……」
ガクガク
プルプル
シャカ
シャカ
シャカ
シャカ
シャカ
フチョ
フチョ
フチョ
フチョ
フチョ

「くっ…ぷぴぴぴ…！ぷぷぅう！
くぷぅ！んきききぎぃ！」
「くっくっく！なかなか耐えるな。
だが、ヒドいマヌケ面だぞ？しかも
服の上から分かるくらい乳首も勃起させて
まさに敗者に相応しい姿だな。」
ガクガク
プルプル
シャカシャカ
シャカシャカ
シャカ
コチョコチョ
コチョコチョ

「さぁ、もっと情けない格好にしてやろう。」
「ふぐうぅぅん!?んむうぅぅぅぅ!
んんんんんんん!」
プルン
プルン
コチョ
コチョ
コチョ
コチョ
コチョ
シャカ
シャカ
シャカ
シャカ
シャカ

「お前のバカみたいなガマン顔をおかずにしてやろう。せいぜい頑張ってガマンしてマヌケ面を晒してくれよ。耐え切れなくなった瞬間顔に精液を射精しまくってやるから覚悟しろ・・・！
ジコ
ジコ
ジコ
ジコ
シャカ
シャカ
シャカ
シャカ
シャカ
コチョ
コチョ
コチョ
コチョ
コチョ

「ぎゃあっっはははははははは！ぎゃひひいいい！
ムリ！こんなのおおおおお！ぐほほほほおお！
ぐひゃひゃはははひゃぁ！やべろおおおお！」
「チクショオオ！放せ！んぎゃあああああっはは！
ころっ！殺してやる！殺す殺す殺す！」
ツコ
ツコ
ツコ
ツカ
ツカ
ツカ
ツカ
ツカ
フチョ
フチョ
フチョ
フチョ
フチョ

殺すっ…!!
ビチャ
ベチャ
ビュッ
ドビュッ
バコバコ
ジャカ
ジャカ
ジャカ
ジャカ
ジャカ
コチョ
コチョ
コチョ
コチョ
コチョ

「絶対許さない！クソォ……！クソオオ！
このヘンタイ野郎オ！」
ロォ…
ビ
シャカ シャカ
シャカ シャカ
シャカ
フチョ
フチョ
フチョ
フチョ
フチョ

「ごべんなざいいいい！許じでえぇ！
んぎゃぁひゃあああぁ！んおっ！おほおおお！
犯さないでっ！くすぐらないでえええぇ！」
ブシュシュシュ
クリュクリュ
コチョコチョ
コチョ
なでなで
クニクニ
クニクニ
パン

「どうした？俺を殺すんだろう？
このままだと殺す前にま○こに中出しされるぞ？」
「ひっ…！いやだっ！やめろっ！やめてくださいい！
中出しいやぁあ！殺さないからっ！んっ！んぎっ！
外で射精してくださいいっ！」
グショショショ
クリュクリュ
フチョ
フチョ
フチョ
なでなで

「のほほほほおおおおおおおお！」
ゴショショ
クリュクリュ
コチョ
コチョ
コチョ
ドビュル
ビュブブ
ビュルルル

「あ…あへ…ダメって…言ったのに…」
ビク
ビク…
ブルブル
ブルブル
ゴプ…
ボトボト

「？…あぐ…？」
？？
ブチュ…
パチュン
ブチュ…
パチュ…

「何を勝手に終わらせているんだ？
あと10回は中出しするからな…」
「あ…あ…やめ…やめて…許して…」
カチ
カチ
カチ
プチュ…
パチュン
ブチュ…
パチュ…

「んっ！んおっ！おおおおおっ！やめぇっ！
もやめでっ！イくの！ちくしょおおお！
私イってる！気持ち良くなってるうう！」
ブシュシュシュ
クリュクリュ
コチョコチョ
コチョ
なでなで
クニクニ
クニクニ
バチュン
バチュッ
ブボッ

「たしゆけてぇ……」
ブショショショ
クリュクリュ
コチョ
コチョ
コチョ
なでなで
クニクニ
クニクニ
パチュン
パチュッ
ブボッ

「くっ・・・不覚・・・闘技会に参加したからには覚悟はできています。殺しなさい・・・」
「くくっそれはけっこうな事だな。では覚悟しろ。」

「ひっ……！な、なにをするつもりですか？」
ドガッ
グニッ
ガシッ

「くっ…ひいん！何故…！こんなこと！
んん…お、おやめなさいっ！」
コチョコチョ
クニュクニュ
モミモミ

「いやぁぁぁぁぁ！こ！こんな事っ！
はひゃぁぁん！許されませんっ！んひぃ！」
プル
プルン
コチョ
コチョ
モミ
モミ
クニュクニュ
クニュクニュ

「あっ！っひゃはははははははっ！だめぇえ！
こんな！破廉恥なぁ！恥を知りなさいいっ！」
コチョコチョ
クニュクニュ
クニュクニュ
モミモミ
モミモミ
カリカリ
コチョ
トロリ…

「なひいっ⁉ななぁ！何をっ！
こんなっ…こんなのっ！」
コチョコチョ
クニュクニュ
モミモミ
カリカリ
トロリ…

「おっほほほおおおお!?にょほほおおお！
ダめぇ！コレェ・・・！お股コスっちゃらめぇ！」
コチョコチョ
クニュクニュ
クニュクニュ
カリカリ
コチョ
コチョ
プリュプリュプリュ
プリュ

「ふむぅんんぐうううう！
ふんぎいいいいいいい！」
コチョ
コチョ
クニュクニュ
クニュクュ
モミ
ワキ
ワキ
モミ
モミ
ガガ
コチョ
コチョ
プシュ
プシャアア
シュババ
ジョバッ

「せっかくマヌケ面を晒してまで声をガマンしてもあれだけ派手に失禁してはイったのがバレバレだぞ？敵の前で小便を漏らすとは・・・ククッ、少しは恥を知れ。」
「き・・・きひやまぁ・・・よくも・・・」
ハァ・・・
ハァ・・・
ポタ・・・

「シズカさん・・・申し訳ありません・・私の力が及ばないばかりに・・・」
「ゴメン・・・トモエ様・・・助けに来たつもりだったんだけど・・・」

「さぁ、目の前で主が弄ばれるのを見て己の無力さを思い知れ。」
「きゃはぁぁあああ！またっ!?やめてぇえええ！」
「トモエ様!?や、やめろ！辱めるなら私にしろぉ！」

「ひぃっ！んくっ…！ふっ…ひ…何が…したいんだ…！
私はどうなってもいい…んひっ！トモエ様を…解放…して！」
「シ！シズカさんんん！しょ、そんなのぉ！あっひひぃぃ！ダ！メぇぇ！」

「勝手に決めてもらっては困る。
無論2人ともいたぶって愉しませてもらうぞ。」
「そんにゃあぁぁ！あひひひぃ！んにゃあああぁ！」
「はっ！はあぁぁぁぁ！苦しいいいんっ！あひっ！んひゃあぁぁ！」
「おねがいいい！トモエ様だけはっ！私がっ！私がぁぁあ！」

「くくっそこまで言うならコイツに奉仕してもらおうか。口で射精させられれば主を解放してやろう。」
「ひいいっ！な、なんでこんなにおっきく……！
…ほ、本当に解放するうんだな…!?」
「だ、ダメです！シズカさん！そんな事しては…！」

「そ、そんな…シズカさん…くっ…ひ…んくっ…」
コチョ
コチョ
シャワ
シャワ
コチョ
グリグリグリ
クニョクニョ
ペロ…
ペロ…
ワキワキ
ワキワキ
コリョコリョ
コニョコニョ
コチョコチョ
コニョ

コチョ
コチョ
シャワ
シャワ
コチョ
クリクリクリ
クニョクニョ
ジュポンッ
ワキ
ワキ
コリョコリョ
コニョコニョ
コチョコチョ
コニョ

!!?
ビチャ
ビチャ
ドビュルル
ドビュ
!?
ビチャ
ビュブル

「うぅ・・・トモエ様にまでかけるなんて・・・
イ、イヤ、約束通りトモエ様だけでも解放してくれ・・・」
「シズカさん・・・必ず助けに戻ります・・・」
「ククククッ・・・」

「なっ…!?コレは…?や、約束が違うぞ!」
「ああ、主を解放するという約束か。まさか信じていたのか?めでたい女共だ。だがまぁ、嘘を信じて必死にち○ぽをしゃぶるお前にはなかなか興奮させてもらったよ。」
「ゆ、許しません…!シズカさんの気持ちを弄んだあなたを…!」

「きゃあああああ！またあああ！っははははひゃはぁは！
こんなっ！耐えられないっ！くううん！ひゃひひいいい！」
コチョコチョ
コチョコチョ
クリクリ
クリコチョコチョ
クニョクニコチョ

「きゃひゃあああああぁあ！
コレっ！挿入ってるぅう！」
「う・・・うわあああああああ！
やめろっ！やめてくれぇぇぇ！」
「くくくっ！そこで主が犯される
のを見ていろ。」

ブチュンッ

コチョ コチョ
ワキワキ コチョ
グリ コチョチョ コニョ クリクリ
クニョクニコチョ

「んっ！んおっ！おほっ！だっ！めっ！シズカさん！
見ないでっ！犯されてる顔！見ないでぇ！」
「お願いします…もうやめて…ください…
私を犯していいから…グスッ…」
「まぁ焦るな。ちゃんとお前の相手もしてやる。」
ブチュッ
ハチュン
コチョ コチョ
ワキワキ コチョ
グリ コチョチョ
コニョ クニョ
クリクリ
クニコチョ

「くくっ！主が見の前で犯されているのにこんなに濡らしていたのか？」
「あひぃん！う、嘘を言うなっ！あっ！そんな音たてるなぁ！」

ペチョ ジュルルルルズジュ
ベロベロ ベロ
プチュ ジュルル

ブチュッ

ペチュン

コチョ コチョ
ワキワキ コチョ
グリ コチョチョ コニョ クリクリ
クニョクニコチョ

「にょほおおおおおおおぉぉお！」
「いやあああああああああああああ！」
ペチョ ノュルルルズジュ
ベロベロ ベロ
プチュ ジュルル
プシャアアア
ドピュン
ビュルルル ドクドクドク
コチョ コチョ
ワキワキ コチョ
グリ コチョチョ コニョ クリクリ
クニョクニコチョ

ガタ
ガタン
プル
プル
こちょ
こちょ
コチョ
カリ
カリ
こちょ
こしょ
こしょ
こしょ
こしょ
こしょしょ
「んぎゃあああぁぁあっ！
っはひゃはははははぁ！
くしゅぐったいいいいいい！
あ！ぐひょおおぉぉおん！
もっと！もっとぉぉお！
主人を守れないダメ忍者に
もっとお仕置きしてぇぇ！」

ガタ
ガタン
プル
プル
ブ
ギュン
こちょ
こちょ
コチョ
カリ
カリ
こちょ
こしょ
こしょ
こしょ
こしょ
こしょしょ
「んぎいいいいいいいい！
おっ！んおっ！ち○ぽぉ！
レイプされてりゅうう！
犯してぇ！トモエ様みたいに
犯してぇぇぇぇぇ！」

「んごおおおおおおお！
出てるぅ！おま○こにっ！
ち○ぽ汁出されてるのぉ！
イく！お仕置きでイくぅ！」
ガタ
ガタン
どびゅる
びゅる
ドピュ
ドクン
ドクン

「ククッお前の様な雑魚も闘士なのか？
正に男を愉しませる以外能のない体だな。
その体、俺が有効に使ってやろう。」
「ひ、ひどい・・・変な事を言わないで下さい・・・」

「ぶふぅっ!?ええっ！何をっ!?」
ビクンビ
ゴショゴショ
ゴニョコニョ
コチョ
ワキ
ワキ
モミ
モミ
ワキ
ハヤッヤッヤッヤ
カリ
カリ
ゴショゴショ
クリクリクリ

「いやあああああぁぁぁぁ！ダメッだめぇぇぇ！
服返してっ！恥ずかしいっ！くすぐったいぃぃ！
あっ！あひひ！おほほほほほほほほぉお！」

「ひぎぃぃぃぃぃ！うそっ!?
うそぉぉぉぉぉ！
あっ！んぁぁぁぁぁ！
あひひひひぃぃぃ！」
ビクンん
ゴショショショ
コニョコニョ
コチョ
ワキ
ワキ
モミ
モミ
ワキ
ショババ
ショバッ
ビン
ビン
ガリ
ガリ
ゴショゴショ
ゴリゴリ
ジョボ
ボボボ

「ハァ…ハァ…も、もう…許ひてぇ…」
ピクン
ハァ…
ハァ…
トピクン
プル
プル

コチョコチョ
ワキワキ
サワサワ
コニョコニョ
コリョコリョ
ゾワゾワ
トロリ…
ピチョ
「くひぃぃい！おっおほぉ！
ダメっ！許してっ！くすぐらないでぇ！
脇弱いのぉ！敏感乳首撫で回さないでぇ！」

コチョコチョ
ワキワキ
サワサワ
コニョコニョ
コリョコリョ
ゾワゾワ
ズーン
ブギュッ
「きゃひゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！んあああ！
ち〇ぽぉ！レイプしないでぇ！今だめっ！
ダメになるっ！くひぃぃぃぃん！」

コチョコチョ
ワキワキ
サワサワ
コニョコニョ
コリョコリョ
ゾワゾワ
ズコブギョ
バコブギュッ
「あっへぇえ！あひゃ！ふむぅん！イっく！
ダメっ！なのに！イってる！レイプでイく！
無理！ガマン無理っ！気持ぢいいぃ！
久々セックスいい！レイプでもいいのぉぉ！」

コチョコチョ
ワキワキ
サワサワ
コニョコニョ
コリョコリョ
ゾワゾワ
「おっほぉおおおおおおおおぉぉ！
中出しぃ！おま〇こにおち〇ぽ汁
出されてるぅ！またイぐぅぅぅ！」
ドピュピュ
ドピュ
ベビュルルビュー

トビクン
ビク
ドロ…
「あは…あひゃああ…アニャタ…
ごめんなさい…くすぐられて…
お漏らし見られて、レイプされて
イきまくっちゃったのお…」

「てめぇ・・・！とっとと放しやがれ・・・
消し炭にされてぇのか・・・!?」

「フニクラ様⁉な、なんで⁉」
「フニクラ？ああ、この気味の悪い杖か・・・
意思を持っているようだったがすでに俺が操作している。」
「そ、そんな！」
ピクン
ウネ ウネ

「フニクラ様あ！なんかいつもと違う……！
脇はダメなんですう！はうっ……んん……！
くう！くすぐったいですううう！」
ビクン
コチョ
ウネ
コチョ
グニグニ
コチョ
ウネ
クリクリ
ウネ
コチョコチョ
プル
プル
プル

「あぁぁあぁあ！いやっ！あひゃあああぁぁあ！
こちょこちょダメぇ！やめてっ！やめさせてぇ！
んひひひひ！かっ返して！フニクラ様を返してぇ！」
コチョ
コチョ
ウネ
クリクリ
コチョ
グニグニ
ん
コチョ
コチョ
ウネ
クリクリ
ウネ
コチョ
コチョ
コチョ
プル
プル
プル

「ひぃいっ！なにを・・・！」
「杖を返してほしいんだろう？なら俺に逆らわないほうがいいぞ？
反抗すればこんな杖へし折ってやるからな。くくっ・・・」
「わ、分かりましたぁ！ですからそれだけはぁ！」
ビクッ
しん
コチョ
コチョ
ウネ
ウネ
クリ
クリ
コチョ
コチョ
コチョ
コチョ
ビキ
ビキ
プル
プル
プル

「んっく・・・ちゅっ・・・ちゅうちゅう・・・」
「それで杖を返してもらえると思っているのか？
もっと下品にしゃぶりついてち〇ぽをしごきあげろ。」
「ひゃ、ひゃいぃ・・・」
チュプ♥
コチョ
コチョ
ウネ
クリ
クリ
ウネ
グニ
グニ
チュッ♥
コチョ
コチョ
ウネ
クリ
クリ
ウネ
コチョ
コチョ
コチョ
プル
プル
プル

「ん・・・！ぶふぅ！ジュグプ・・・」
「その調子だ。そのまま舌で亀頭をベロベロ舐め回せ。」
「ベロベロベロレロ・・・！」
「ククク・・・杖を人質にした途端従順になったな。」
ジュプ
コチョ
コチョ
ウネ
クリ
クリ
ウネ
グニ
グニ
グプ
しん
コチョ
コチョ
ウネ
クリ
クリ
ウネ
コチョ
コチョ
コチョ
プル
プル
プル

ビュブルルルルルル
ブビッ
ドビュル!

「はぁ…はぁ…はぁ…んぁ…
ふにくらさまぁ…かえしてぇ…」
ドロ…
ハァ…
ハァ…

「てめぇ・・・！いい加減にしろよ・・・！このヘンタイ野郎が・・・！」

ヒクン
ヒクン
ヌルリ…
ピト…
「ひゃうっ…！この…！触るな！殺す…！殺すぞ！この…！」

プル
プル
ベロ
ベロ
ベロ
ピチャ
ベロ
ベロ
ベロ
んきゃぁ！きゃっはははははは！
てめっ！やめろぉお！あひゃぁぁ！
ひゃあああああああああ！」

ブチュン
ベロベロベロ
ピチャ
ベロベロベロ
「きゃあああぁぁぁぁああ！
なぁ！何挿入れてんだ！
んっあああ！くうおおお！」

ドビュルッ
ビュブブ
ルルル
ビュッ
ビュル
ブビュ
ベロ
ベロ
ベロ
ピチャ
ベロ
レロ
ベロ

「うきゃあああああああ！
出てるぅ！ま○こにいい！
やだやだやだぁあああああ！」

ピクピク
ヒク
「あ…ああ…こんなに…ま、満足しましたか…？
あの、その…そろそろ…フニクラ様を返してもらえますか？
約束…でしたよね…？」
「また弱気に戻ったか。まだ杖は返せんなあ。
この杖から出る液体を飲ませればまた
反抗的になるんだったな？俺は強気な女を無理やり
犯すのが好きでな。また反抗的にしたお前を犯してやる。
弱気になったらまた強制的に強気にして犯す。
それに飽きたら杖は返してやるかもな。クククク…」
「あ…あは…嘘ですよね…？」

ドクンドクン
ドクドクドク
「てんめぇ！ふざけんなぁ！マジでぶっ殺す！
絶対殺すっ！触んなコラァ！あっ！このっ！
あひゃぁ！きゃっ・・・きゃはははははっはははは！
あひゃはははははぁ！やめろ！やめろおおおおおおおお！」

「ふふぅーん？やるじゃないか。でもこの程度でボクを捕まえたつもりなの？」
「くく…たいした自信だな。液状化する能力で逃げるつもりか？その能力なら俺の力で封印しているぞ？」
「なっ…!?なんでそれを…？そんなのハッタリだ！」

「ひっ・・・何する気？あう！くすぐったいだろ！
ひゃうう・・・ホントに・・・能力が・・・あぁぁん！」
ピクン
クリクリ
クリクリ
フゥ～

「あああああああ！っははははははひゃっははは！
なっ何がしたいんだよぉ！いやぁぁぁん！」

コチョ
ワニュ コチョ
ワキ ワキ
ワニュ

コショ コショ
コチョ こちょ
クリクニクリ

コチョ
コチョ
ワキワキ
コショコショ
コチョこちょ
クリクリクリ
ズイ
「ひゃあっ！へ、へんなモノ近づけるなぁ！
くひぃん！…ぜ、絶対触らないからな！」
「ククク、そうかな？」

コチョ
コチョ
ワキワキ
コショコショ
コチョこちょ
クリクリクリ
ギュッ！
「んにゃあ!?な、なんでぇ？髪が勝手に!?
ひゃあうん！ボク操られてる!?」

「うわぁぁあ！動かすなぁ！あひゃぁあ！
くううん！体戻ってぇえ！」
「さぁ、早くなんとかしないと
顔が精液まみれになるぞ？」
「いやぁあぁあぁあぁあ！」

ドビュルル
ビュブルルルルルビチャ
ベチャ
ビチャ
ゴショゴショ
ビュルよ
クリクニリッ
ビュッ
ワキワキ
ワニュ
しこしこしこしこ
「うぎゃあああああああああああ！」

「ハァ・・ハァ・・・じぇ・・・絶対許ひゃないぞぉ・・・」
ドロ・・・

「いったい何なんですかぁ～？
私はこんなところで捕まってるヒマはないんですぅ！」

グニグニ
グニ
コッショ
コッショ
コッショ
「きゃうぅん！ダメェ！あはぁん！
くすぐったいですぅ！なんですか！
このマッサージはぁ！」

「あああああああああああああああ！
も！もういいですぅ！やめてくださぁい！
こちょこちょイジメられるとヘンになりますぅ！」
グニグニ
グニ
グニュ
クニュ
クニュ
コリコリ
コリコリ
クンクニュ
クニュ
コショ
コショ
コショ
コショ

「はにゃあああああぁぁ！いやぁあん！
ダメでしゅぅ！しょこはぁ！あっはぁん！
気持ち良すぎますぅううう！」
グニグニ
グニ
グニュ
クニュ
クニュ
コリ
コリ
コリコリ
クニクニュ
クニュ
ゴショ
ゴショ
ゴショ
ゴショ
ブッ

「あひゃあああぁぁあ！すごい！
すごいのぉ！もっとひて！おおおぉお！」
ゴショ
ゴショ
ゴショ
ゴショ
コリコリ
コリコリ
クンクンュ
クンュ
グングン
グングン
グンュ
クンュ
クンュ
ヴィ
ヴィ
ヴィ
ヴィ
ヴィ
ヴィ
ヴィ
ズチュチュ
ズチュチュ

「イくうう！イきますうう！ああぁぁん！
すごいですうううううう！」

「アナタ誰ですの？早く解放した方が
身のためですわよ？」

ビクン！
ショワ…
コチョ…
「なっ!?まさか…!?
やめなさい！触らないでっ！」
「クククッその反応…
何をされるか分かったな？
一気に行くぞ…覚悟しろ。」

「ぎゃっはははははははははは！
いやああっひゃはははひひぃ！おぉぉ！
おほっ！やめっ！ほほほほほほぉぉお！
ひぎいいいいいいいいい！」

「ん…ぎぎぎ…ダ…め…！
出…ちゃうう…！やだぁ…！
お願いぃ…！やめでぇえ！」
じわり…

「ひぃぃぃぃいっ！そんなぁ！
何をっ！考えてますのっ！
おぞましいですわっ！ああぁっ！
もうダメっ！だめだめだめぇえ！」
ガ
バッ

「ほあああぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！
うそうそうしょおおおお！」
ゴクン
ゴキュン

ピク
ピク
「あ…あひ…ひ…あは…もう…
助けて…アハハ…」

「やはあああああ！
やめっ！もうこちょこちょは
いやですわぁあぁ！」
ビキビキ

「おほぉ!?」
ズブォ
!?

「ひょほほぉおお！イく！
イってるぅ！あひゃはぁ！
くすぐりレイプでおま○こ
イっちゃってるのぉぉ！」
ジャジャジャジャ
ブジョブジョ
バチュッ
ブチュッ
ジュブンッ

「いやあああああ！精子出してるぅ!?私のおま〇こ性欲処理の道具にされちゃってるのおお！」
ドビュルルル

「……」
ビクビク

「あひゃはははぁ！もっもうイヤ！
ふ、二人ともなんとかしてよぉ！」
「しょ、ひょんにゃの無理ですわ！
くすぐったくて何も・・・あはははぁ！」
「きゃああぁぁはっはは！こちょこちょもっとぉ！
気持ちいいのもっとくださぁい！」
ビク
ビク
ジタ
バタ
プル
プル
コチョ
コチョ
コチョ
こちょ
こちょ
カリ
カリ
カリ
こちょ
コショショ
コチョ
こちょ
さわ
さわ
カリ
カリ
コチョ

「んほおおおおおおお！」
「なっ!?なんだよメ〇ス！
へっ、変な声だすなよぉ！」
「あひゃぁ！おち〇ぽキましたぁあ！」
「なぁっ!?ち、ちん・・・いやっ！イヤですわっ！
メ〇ス！どきなさいっ！」
パン
パン
ブチュ
パチュン
ジタ
バタ
プル
プル
コチョ
コチョ
コチョ
こちょ
こちょ
カリ
カリ
カリ
こちょ
コショショ
コチョ
こちょ
さわ
さわ
カリ
カリ
コチョ

「イくぅぅぅぅぅ！ダメぇ！またイくぅ！
あひゃぁあん！イくイくイくぅぅぅ！」
「いやぁん！やめないでくださぁい！」
「ま、まさか…次は…ボクが…
イヤだ！助けてっ！犯さないでぇ！」
バチュン
ブボッ
プル
プル
ジタ
バタ
コチョ
コチョ
コチョ
こちょ
こちょ
カリ
カリ
カリ
こちょ
コショショ
コチョ
こちょ
さわ
さわ
カリ
カリ
コチョ

「ほひひぃいい！やめろぉ！イヤぁ！ダメダメダメイっくぅうぅぅ！」
「くすぐりやめてぇ！お願いしますぅ！」
ジタバタ
プル
プル
ブチュン
パチュン
コチョ
コチョ
コチョ
こちょ
こちょ
カリ
カリ
カリ
こちょ
コショショ
コチョ
こちょ
さわ
さわ
カリ
カリ
コチョ

「んほおおお！」
ドビュルルル
ビクビク
コチョ
コチョ
コチョ
こちょ
こちょ
カリ
カリ
カリ
こちょ
コショショ
コチョ
こちょ
さわ
さわ
カリ
カリ
コチョ

ベクベク
「あひゃあああ！」
ジタバ
ドピュ ビュルル
ドクドク
ビクン
ビクン
コチョ
コチョ
コチョ
こちょ
こちょ
カリ
カリ
カリ
こちょ
コショショ
コチョ
こちょ
さわ
さわ
カリ
カリ
コチョ

「んごおおおお！」
ドビュビュビュビュ
ビュルル
ビュルル
ビクン
ビグン
ビクン
コチョ
コチョ
コチョ
こちょ
こちょ
カリ
カリ
カリ
こちょ
コショショ
コチョ
こちょ
さわ
さわ
カリ
カリ
コチョ

シャアアア…
ビクン
ビクン
ビクン

「ば、ばかな…余の力が効かないだと…
戦いに敗れたばかりかこのような屈辱…
貴様許さぬぞ…！」
「くくっさすがは女王。いたぶり甲斐のある事を
言ってくれる。その顔がどのように歪むか楽しみだ。」

「んくっ!?な、なにを…!
貴様…あふっ…ん…正気か…!?」
ゾク
トゼツ
コキョ…
たわ

「ふっ…！くうん…！はぷっ…
「こ、こんなもの…で…んふっ…」
「ふっふ…そうだ…こんなものでは
女王様が屈服してはおもしろくない。」
ゾク
ゾク
コチョ
コチョ
コチョ
ツヤ
ツヤ
プル
プル
プル

「んんっ！む…ふぅん！くっ…ぶぶぶぶぶ…！
き、きひゃま…も、目的…を言え…！ぶひっ…
聞いてやる…！余の力で叶えてやるぞ…？はっふ！早く言え！」
「そうか…俺の望みを叶えてくれるのか。
俺の目的は……コレだ。」

「んきゃあああああぁぁぁぁぁ！っはははははあはは！
も！もうだめぇえええぇぇぇぇぇ！ガマンできぬぅう！
おっほほほほほほほほほほっ！何故！何故だぁあ！」

「くっくっく！コレこそ俺の目的だ。くすぐり、笑い狂う女を犯す。
そして許しを乞い屈服し絶望した女をまた犯す。それこそ俺の目的だ。
さぁ、俺の願いを聞いてくれるんだろう？」

「うきゃあああああああああああ！いや！イヤだぁ！
あっ！あはははははははははははあぁ！そんなのぉ！
はひゃ！ひゃあああああ！頼むっ！やめてくれぇぇ！」

「うわあああああああああ！
見るなっ！みるなあああああああ！」
ゾク
ゾク
ゾク
ブル
ブル
ブル
グリグリ
モミモミモミ
ワキワキ
コチョ
コチョ
コチョ
ツヤカ
ツヤカ
モミモミ
プル
コリョ
コリョ
ドクンコ
ドクンコ
モミモミ
プル
プル
ジョロロロロロロ…

「うわあああああああああ！やべでっ！あひゃあああああああ！
何でもするっ！助けてぇ！助けてくださいいいいいい！」
ゼク
ゼク
コチョコチョコチョ
ツャカツャカ
ツャカツャカ
カリカリカリカリ

「あ…」
コチョコチョコチョ
ジャカジャカ
ジャカジャカ
カリカリカリカリ
ビク
ビク
グギュプッ

『イっくうううう！』
コチョ
コチョ
コチョ
ビクン
ビクン
キュン
キュン
ブル
ブル
ブル

「イくっ！イってるぅ！あぎぃいいいい！まだ！イってるから！
わ！わかった！おま○こつかっていいからぁ！くすぐらないでぇ！」
コチョコチョコチョ
ビクン
ビクン
ブルブル
ブルブル

「おっほぉおおおお！死ぬぅぅぅぅぅぅ！」
コチョコチョコチョ
ビクン
ビクン
ドピュ ビュルルルルル
ブルブル
ブルブル

「クククッどうだ？自分の能力で石化されるのは。その情けない姿で飾ってやろう。安心しろ。また犯すときだけはは石化は解いてやる。」